

令和2年度 静岡大成中学校 学校評価書

<評価基準(達成度)> A 80%以上 B 50%以上 80%未満 C 30%以上 50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
目指す教師	1. 厳しく、あたたかく、生徒と同じ位置で指導する。	良いことと悪いことをはっきりと示す。生徒の人権を尊重し、子ども扱いしない。力に頼った指導をしない。	A	発達障害を含め、人間関係を築くことができない生徒が増えている。中学部内で情報を共有し、悪いところはしっかり指摘し、良いところを認める指導を実践した。今後も継続したい。	A	・心と体の成長が最もアンバランスになる年代の生徒を指導するのは大変なストレスとエネルギーを要すると想像します。先生方の負担を減らして生徒に向き合ってもらってほしいと思います。 ・生徒が中学生であるため、温かく指導することが大切である。そのためには教員のチームワークが大切になると思われます。まずは子供を好きになることが大切です。学力向上も大切なことですが、それだけに目を奪われずに指導してほしいと願っています。
	2. 率先垂範を実行する。	目指す生徒を自ら実行する。正しい言葉遣いで話す。先頭に立って生徒を導く。生徒と一緒に汗を流す。	A	生徒が主体的に活動できるように教師がサポートし、生徒が達成感を感じられるような言葉かけを実践した。今後も継続したい。		
	3. ビジョンを持って一生懸命努力する。	できない理由を探す前にやってみる。ぶれない・あきらめないこと。	A	今年度はコロナ禍によりオンライン授業を行った。また、Classiを活用して、保護者への小まめな情報発信を行った。新しいことにも柔軟に対応できるように努めたい。		
	4. 私学人としての自覚と理想を持っている。	学校の発展を共通目的とする。私学だからできること、私学だからやらねばならないことを実行する。保護者と良いリレーションを築く。	A	保護者の学校への期待は非常に高い。学習環境の維持に努め、学力向上・進路実現に向けて、より一層学習指導を充実させたい。		
	5. チームとしての教員集団である。	前向きで明るい性格になる。仲間の良いところを認める。仲間と真のコミュニケーションを図る。常にポジティブな表現を使う。	A	教員同士がクラス・学年・教科の枠を超えて、生徒の指導にあたってきた。お互いの良さが生徒全体の指導に反映できるように協力しあい、統一した指導を今後も継続したい。		
学習指導	1. 基礎学力を身につけた生徒の育成	① 授業を真剣に取り組ませる。 ② 授業中の机間巡視、課題の提出及び点検、小テストの実施等によるきめ細かな指導。 ③ 必要な場面で、義務教育内容の学習や級別テストの内容を取り入れた授業の実施。 ④ 「わかる授業」「楽しい授業」「身につく授業」を実践する。	B	授業中はしっかり話を聞き、静かに落ち着いて学習させる。課題は必ず出させる。小テストや検定に向けた学習など、基礎力の育成に努めた。次年度以降も、基礎力の定着のために生徒一人一人にコツコツと努力をさせたい。	B	・ICTを使うことで先生に余裕が生まれるのであれば、活用すべきだと思います。 ・スターライトが縮小されたのはとても残念です。中学の大きな特徴だと思う。もう一度見直しますか。 ・中学生の進学先一覧を見ますとかなりの実績をあげられていますが、貴校の中学に入学してくる生徒はかなりモチベーションを持っているように思われます。この点を実践できるよう今後も頑張ってもらいたいと思っています。
	2. 学習習慣を身につけた生徒の育成	① 進路や将来に関する話をし、学習に対する目的を持たせる。 ② 小さな進歩を見つけ褒めて、生徒に自信を持たせる。 ③ 宿題を与え学習習慣を身につけさせる。初期指導を大事にする。 ④ 毎日1Pノートを実践し、学習習慣を身につけさせる。	B	1Pや各教科での学習課題等はこまめに点検し、必ず提出しなければいけない雰囲気を作ってきた。また、勉強しなくてはならない環境づくりに努めた。各クラス数名の指導に手を焼いているが、多くの生徒はしっかり学習できている。		
	3. 学力の3要素である思考力・判断力・表現力や、主体性・多様性・協働性を身につける授業の研究および実践	① 自己研修や教科会での研究を行い、実践につなげる。 ② 教科指導目標を目指した授業を展開する。	B	多くの業務を抱える中で、自分研修をする時間が持てない教師が多い。しかし、コロナ禍の中でICT環境が充実した。今後はICTを使うことでどんな学習ができるか研修し、新たな教育活動を進めていきたい。		

令和2年度 静岡大成中学校 学校評価書

<評価基準(達成度)> A 80%以上 B 50%以上 80%未満 C 30%以上 50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
進路指導	1. 生徒一人一人が自己を正しく理解し、自らの進路を主体的に選択決定できるように、進路の達成に向けての指導の充実を図る。	①各段階における適切な進路指導・情報提供を行う ②生徒の希望進路について把握し、生徒の目標や悩みを把握しつつ、それらの情報を教員間で共有できるよう努める。 ③進路実現のための受験対策と学力向上のための方策を実施する。 ④各種検定の受験、コンテストへの参加を推進する。	A	1年生からの徹底した学習指導の成果が、検定の合格率や、内申点の上昇につながり、生徒の自信になっている。最終的に、生徒一人一人が希望の高校に進学できるように、今後も手厚い指導を実践していく。	A	・高校選びは以前よりもシビアになっていると思います。偏差値ではなく学校の魅力が選択基準になっていく様に思います。 ・今後も頑張って指導してください。
生徒指導	1. 建学の精神/校則に基づいた指導	①学校生活のリズムを作るような働きかけ。 ②自分たちの学校をきれいにしようとする気持ちを育てる。 ③一生懸命やろうという気持ちにさせる。 ④生徒一人一人と向き合う時間や機会を増やす。	A	学習に向かう態度、制服の着用、頭髪、ベル着、整理整頓、挨拶等、中学生らしい生活態度を身に着けさせることを徹底してきた。活動の基本となる部分なので、今後も継続して指導をしたい。	A	・時代に合わせてルールも少しずつ変えていっても良いと思います。残し守るべきものと、改善・改良していくもの。少しずつ変化していくことは魅力づくりになると思います。 ・最近の世相を見てもみずと何でも自由化でどうかと思われることがありますが、時代がどう変わっても中学生がこうあるべきだということは変わっていないと思います。断固たる指導をお願いします。
	2. 安全・安心な学校づくりの徹底	①正しい判断と行動ができるように常日頃話しかけをする。 ②相手を思いやる気持ちを育む。 ③スマートフォンなどの情報機器の適切な使用を指導する。	B	スマートフォンを離せない生徒が増えている。来年度からiPadも所有するため、情報管理のルールやモラルをしっかり守らせ、正しく使用するよう指導を徹底させたい。		
	3. 生徒指導のスキルアップ	①生徒指導において必要な力を身につけるよう努力する。 ②しかるべきとき、そうではないときのメリハリをつける。	A	中学部全体で統一した指導を心がけてきた。今後もメリハリをつけた指導を継続したい。		
広報活動	1. 全教職員が広報スタッフとして募集活動に協力し、生徒と教師が誇りを持てる学校として地域に奉仕貢献する。	①教員一人一人が広報活動を意識し本校発展のために尽力する ②地域に根差した開かれた学校として地域連携活動を行う。 ③明るく元気な挨拶や言動・主体性を常に心がけたSSの指導、育成を行い、本校の良さを知ってもらうイベントとなるよう一致団結する。	B	オープンスクール等中学部内で協力して運営をしてきたが、今年はコロナ禍で体験会が中止となり、来校者数が減少した。来年度は体験会の回数と定員を増加する。本校へ興味を持ってもらう機会や本校の良さを感じてもらう機会を増やし、受検者数の増加につなげていきたい。	B	・少人数であるため広報は難しいと思いますが、高校への進路先が一番の広報になると思います。今後も激しい指導をお願いします。